

神奈川県立博物館発掘調査報告書

第 13 号

師 岡 遺 跡

(資料編)

A REPORT ON THE ARCHAEOLOGICAL EXCAVATIONS
BY KANAGAWA PREFECTURAL MUSEUM

No.13

MOROOKA

(PLATE)

神奈川県立博物館
KANAGAWA PREFECTURAL MUSEUM

Nakaku Yokohama Japan

1981

師岡遺跡資料編目次

1. 師岡遺跡発掘調査報告書（資料編）の刊行について…………… 1
2. 師岡遺跡位置図…………… 3
3. 資料編収録遺物表…………… 5

図版 1	(1)師岡遺跡遺景…………… 9		
	(2)トレンチ設定状況（2AB・DS・2DEトレンチ）…	9	
図版 2	(1)2ABトレンチ北壁断面…………… 11		
	(2)2ABトレンチ東壁断面…………… 11		
図版 3	(1)2DEトレンチ北壁断面…………… 13		
	(2)2DEトレンチ南壁および西壁断面…………… 13		
図版 4	(1)2ABトレンチB区混土貝層（純貝層に近い部分）…	15	
	(2)2DEトレンチD区混土貝層（純貝層に近い部分）…	15	
図版 5	(1)DSトレンチ西壁断面…………… 17		
	(2)DSトレンチ南壁断面…………… 17		
図版 6	(1)貝刃出土状態（2DEトレンチ混土貝層）…………… 19		
	(2)貝輪出土状態（2DEトレンチ混土貝層）…………… 19		
	(3)阿玉台式土器出土状態（2DEトレンチE区混土貝層）…	19	
図版 7	土器(1)2DEトレンチ出土前期縄文式土器…………… 21		
図版 8	土器(2)2DEトレンチ出土前期縄文式土器…………… 23		
図版 9	土器(3)2DEトレンチ出土中期縄文式土器…………… 25		
図版 10	土器(4)2ABトレンチ出土早期・前期縄文式土器／DS		
	トレンチ出土前期縄文式土器…………… 27		
図版 11	石器(1)磨製石斧・打製石斧…………… 29		
図版 12	石器(2)打製石斧・礫器・磨石…………… 31		
図版 13	貝製品(1)貝刃…………… 33		
図版 14	貝製品(2)貝刃…………… 35		
図版 15	貝製品その他—貝輪・異形貝製品・打製石鏃・黒曜石剥片…	37	

調査主催者…………… 神奈川県立博物館長 戸 栗 栄 次

調査期日…………… 昭和55年3月20日～29日

発掘担当者…………… 神奈川県立博物館専門学芸員 神 澤 勇 一

報告書執筆…………… 〃 〃

師岡遺跡発掘調査と報告書 (資料編)の刊行について

師岡遺跡は、横浜市の北部をほぼ西から東へ流れる、鶴見川の右岸台地上に存在する縄文時代前期の貝塚を伴う集落址の一つである。かなり古くから知られた遺跡で、明治31(1898)年刊行の『日本石器時代人民遺物地名表(第2版)』に、既に「武蔵国橘樹郡旭村師岡——土器」という記載が見える。のちには貝塚が目立つため、一般には師岡貝塚の名称が遺跡名として用いられている。

鶴見川流域は、南関東地方のみならず、海進期に形成された全国有数の前期貝塚の密集地帯として名高い。師岡貝塚はその中心部内にあるが、研究者や考古学愛好家が再三訪れているにもかかわらず本格的な学術調査は行なわれていない。従って、その時期・規模・構造その他の詳細は不明のままであった。

本館では開館以来、地域研究活動のテーマの一つとして貝塚を選び、梶山遺跡(横浜市鶴見区梶山)、上台遺跡(横浜市鶴見区上末吉)の発掘調査をはじめこの地域の貝塚踏査を行ってきた。今回師岡遺跡を調査対象にしたのは最近鶴見川流域の著しい市街地に伴い、少なからぬ貝塚が消滅し、消滅を免れても周辺の環境により調査不可能になる例が多く、師岡貝塚についても後者の可能性が予想されるため、早急に実態を把握する必要があると考えたからである。

師岡遺跡は東京急行電鉄東横線の大倉山駅より東約1.3kmの位置にある標高42.6mの台地上に存在し、行政区画は横浜市港北区師岡町1137番地に属する。同所の熊野神社の敷地内、拝殿裏手の丘頂付近一帯にわたり、丘頂平坦面の北東縁辺から斜面にかけ地表に貝殻が散布する。

調査は昭和55(1980)年3月20日から同29日まで実施した。今回は、北東斜面のうち貝殻散布密度が高い上半部10×14mの範囲を2×2mの単位で区画し、その一部を発掘した。区画の名称は調査地点の北西隅を原点とし、東西方向をアルファベットで、南北方向を数字で区別し、向者を組み合わせて表示する方法をとった。発掘した区画は2A区・2B区=2A Bトレンチ、2D区・2E区=2D Eトレンチおよび区域外に設定したDS区=DSトレンチで、延面積は20㎡である。

その結果、本貝塚は縄文時代前期後半の諸磯b期のもので、混土貝層から成る斜面貝塚と判明した。平均的層序は、表土、混土貝層、混土貝層(純貝層に近いブロック状の部分が入る)、暗褐色土層、暗黄褐色土層、関東ローム層の順となっている。混土貝層は最も厚い部分(2D区)で90cmを測り、貝殻の散布状態を考え合わせると、おそらく直径20m内外の規模をもつ貝塚ではないかと推測される。混土貝層は、ハマグリ・ハイガイ・オキシジミ・カガミガイ・アカニシ等を主体とするもので、遺物の出土は比較的多かった。また、表土、混土貝層、暗褐

色土層からは、踏碕り式土器以外に、黒浜式土器、踏碕a式土器、踏碕c式土器、浮島式系土器、勝坂式土器、阿玉台式土器その他の土器破片が出土し、2ABトレンチの暗褐色土層中からは、只1例ではあるが尖底土器の底部が出土している。これにより師岡遺跡は縄文時代早期から中期に至る間の生活址であることが知られた。

現在、資料整理が一応終了したので考察を加えて報告すべきところであるが、多少検討を要する部分が残し、また紙幅の関係もあるので、ここにとりあえず主要資料のみを資料編として紹介し、次号を本文編に当てることにした。

本調査については熊野神社宮司石川正人氏から格別のご配慮を賜ったのを始め、多くの方々から多大のご協力、ご援助を得た。資料編の刊行に当たり、記るして深く感謝の意を表する次第である。

例 言

1. 資料編では、師岡遺跡（師岡貝塚）における遺跡の状態と遺物のうち、主要なものを収録した。
2. 遺物番号は、本文編（次号）と共通で、遺物名の前にゴシック体の数字で表示した。
3. 「収録遺物表」寸法欄の記載のうち、（）付けの数字は破片または欠損部分の現存寸法である。

資料編収録遺物表

図版	番号	種 類	寸 法 ※()内は現存寸法	出土トレンチ(区)・層位	備 考
7	41 71	前期縄文式土器	—————	2DE 混土貝層	破片
8	72 105	前期縄文式土器	—————	2DE 混土貝層	破片
9	106 126	中期縄文式土器	—————	2DE 混土貝層～混土貝層上部	破片
10	127 146	前期縄文式土器	—————	2AB 混土貝層	破片
	147 156	前期縄文式土器	—————	DS 混土貝層	破片
	157	早期縄文式土器	—————	2AB 暗黄褐色土層	尖底土器底部破片
11	1	磨製石斧	6.6×(7.5)×2.7	2AB(B) 暗褐色土層下部	両刃 両側面に打痕
	2	打製石斧	5.7×11.4×2.8	2DE 混土貝層上部	両面加工
	3	打製石斧	5.8×10.7×2.4	2DE(E) 混土貝層上部	両面加工
	4	打製石斧	(5.5)×(8.7)×(2.9)	2DE(E) 混土貝層上部	
	5	打製石斧	5.5×8.5×2.5	2DE(E) 混土貝層上部	片面 自然面
	6	打製石斧	5.9×10.8×2.6	2DE(E) 混土貝層上部	両面加工
	7	打製石斧	6.3×10.2×1.8	2DE(E) 混土貝層上部	片面 自然面
	8	打製石斧	(5.7)×(8.8)×(1.8)	2DE(E) 混土貝層上部	両面とも自然面を残す。 打ち欠きは周囲のみ。 頭部破片
	9	打製石斧	5.1×(6.2)×(2.0)	2DE(E) 混土貝層上部	両面加工

図版	番号	種類	寸法 ()内は現存寸法	出土トレンチ(区)・層位	備考
12	10	打製石斧	(4.9)×(6.5)×(1.5)	2DE(E) 混土貝層上部	頭部小破片
	11	打製石斧	4.6×9.3×2.6	2DE(E) 混土貝層上部	刃部、頭部に打撃による磨滅がある。磨石に転用した可能性大。
	12	礎 器	8.6×15.8×6.2	2DE(E) 混土貝層上部	
	13	礎 器	8.7×7.8×3.5	2DE(E) 混土貝層と混土貝層の接する部分。	
	14	礎 器	6.4×9.0×4.2	2DE(E) 混土貝層上部	
	15	礎 器	9.4×11.5×5.5	2DE(E) 混土貝層	
	16	磨 石	6.3×8.1×3.8	2DE(E) 混土貝層上部	
13	17	貝 刃	6.3×8.7	2AB 混土貝層	チョウセンハマグリ製
	18	貝 刃	6.0×7.8	2AB(B) 混土貝層	チョウセンハマグリ製
	19	貝 刃	6.6×8.5	2DE(E) 混土貝層上部	チョウセンハマグリ製
	20	貝 刃	5.9×7.4	2DE(E) 混土貝層上部	チョウセンハマグリ製
	21	貝 刃	6.2×7.8	2DE(D) 混土貝層	チョウセンハマグリ製
	22	貝 刃	4.6×5.5	2DE 混土貝層	チョウセンハマグリ製
14	23	貝 刃	4.9×6.3	2DE(E) 混土貝層	チョウセンハマグリ製
	24	貝 刃	6.1×7.7	2DE(D) 混土貝層	チョウセンハマグリ製
	25	貝 刃	5.4×6.5	2DE(D) 混土貝層	チョウセンハマグリ製

図版	番号	種類	寸法 ※()内は現寸法	出土トレンチ(区)・層位	備考
14	26	貝 刃	6.5×7.7	2DE(E) 混土貝層	チョウセシハマグリ製
	27	貝 刃	5.9×6.6	2DE(E) 混土貝層上部	カガミガイ製
	28	貝 刃	6.0×6.5	2DE(E) 混土貝層上部	カガミガイ製
	29	貝 刃	6.4×7.1	2DE(E) 混土貝層上部	カガミガイ製
	30	貝 刃	5.1×5.6	2DE(D) 混土貝層	カガミガイ製
	31	貝 刃	4.2×5.2	2AB(B) 混土貝層	シオフキ製
	32	貝 刃	4.0×4.4	2AB(B) 混土貝層	シオフキ製
15	33	貝 輪	10.7×8.5	2DE(E) 混土貝層上部	イタボガキ製
	34	貝 輪	8.7×7.8	2DE(E) 混土貝層上部	イタボガキ製
	35	貝 輪 破 片	(6.8)×(1.5)	2DE(E) 混土貝層	イタボガキ製
	36	貝 輪 破 片	(6.2)×(2.0)	2DE(E) 混土貝層上部	イタボガキ製
	37	貝 輪 破 片	(6.2)×(1.7)	2DE(E) 混土貝層上部	イタボガキ製
	38	異形貝製品	9.2×5.7	2DE(E) 混土貝層上部	マギキ製
	39	打製石鏃	1.6×2.7×0.5	2DE(F) 混土貝層上部	
	40	黒曜石剥片一拭		2DE(E) 混土貝層上部	

図版 1



(1) 師岡貝塚遠景（東方より）



(2) トレンチ設定状況（左から2AB、DS、2DEトレンチ）

図版 2



(1) 2A Bトレンチ北壁断面

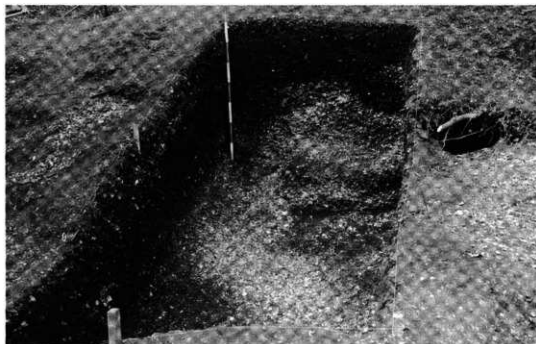


(2) 2A Bトレンチ東壁断面

図版 3



(1) 2DEトレンチ北壁断面



(2) 2DEトレンチ南壁および西壁断面

図版 4



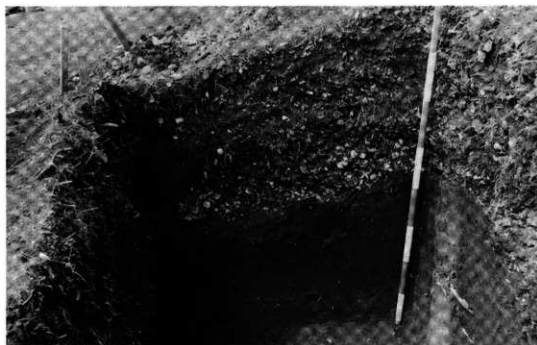
(1) 2A BトレンチB区混土貝層（純貝層に近い部分）



(2) 2D EトレンチD区混土貝層（純貝層に近い部分）



(1) D S トレンチ西壁断面



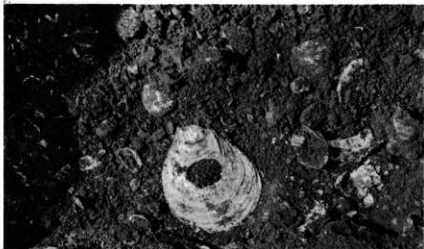
(2) D S トレンチ南壁断面

図版 6

- (1)
貝刃出土状態(2D
Eトレンチ混土貝
層)

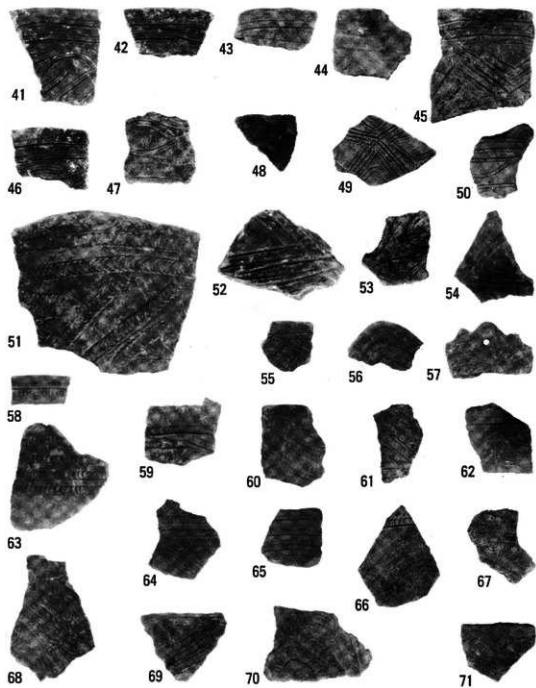


- (2)
貝輪出土状態(2D
Eトレンチ混土貝
層)



- (3)
阿玉台式土器出土
状態(2D Eトレン
チ混貝土層)



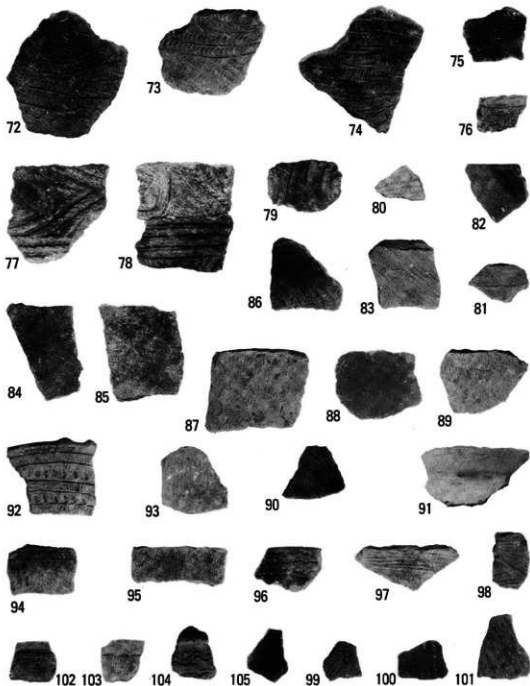


土器 (1)

前期縄文式土器—2DEトレンチ混土貝層出土41~71

縮尺=3分の1。ただし 2分の1=52 4分の1=62・65・67

口縁部=1~6・11・15~20

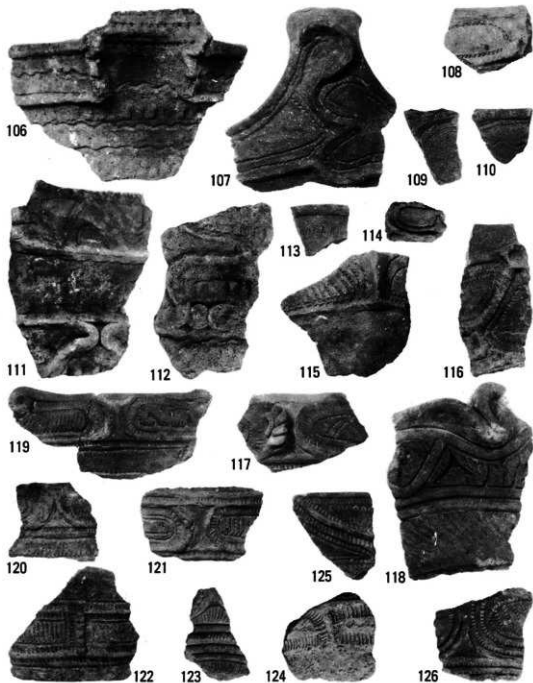


土器(2)

前期縄文式土器—2DEトレンチ混土貝層出土 72~105

縮尺=3分の1。ただし 4分の1=75・80・91・94・99~102

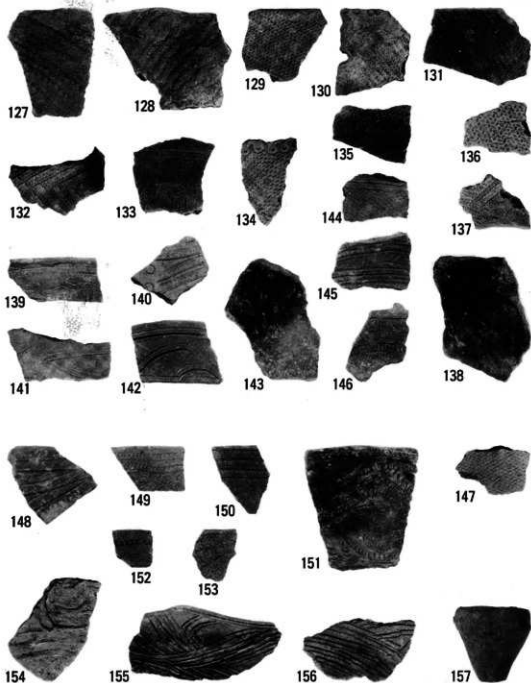
口縁部=76・82・92・96・102・103



土器(3) 中期縄文式土器—2DEトレンチ混貝層上部 106~126

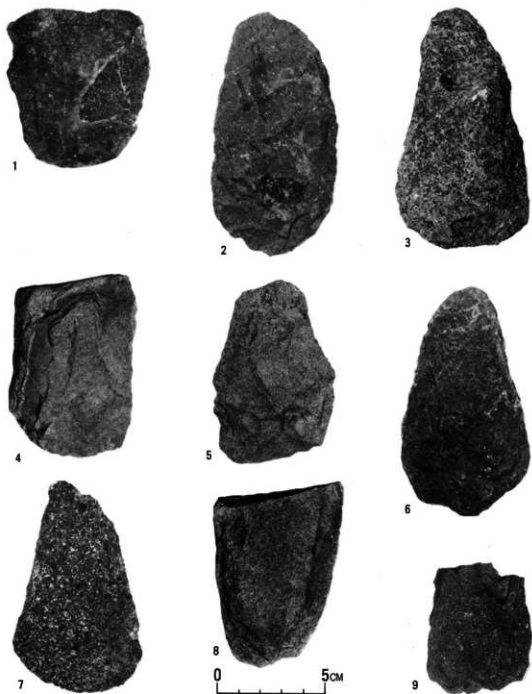
縮尺=3分の1。ただし4分の1=110・113・114

口縁部=106~108・110・111・116~120・125

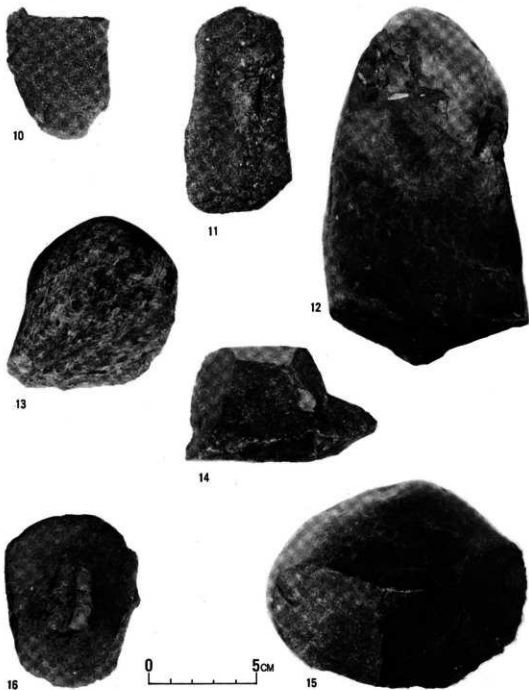


土器(4)

前期縄文式土器—2ABトレンチ混土貝層出土127~146。DSトレンチ混土貝層出土147~156。早期縄文式土器—2ABトレンチ暗褐色土層出土—157(尖底部)
縮尺=3分の1。ただし2分の1=127・128・143。4分の1=147・149・150・152・153。口縁部=127~129・139・146・148~152・155。

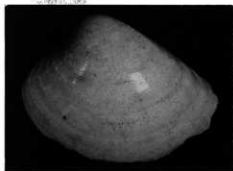


石 器 (1) 磨製石斧—1. 2A Bトレンチ混土具層出土。
打製石斧— 2~9 2D Eトレンチ混土具層出土。

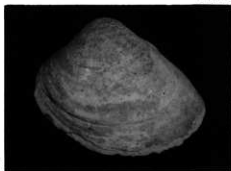


石器(2) 打製石斧—10・11. 礮器—12~15 磨石—16.
10~16 2DEトレンチ混土具層出土。

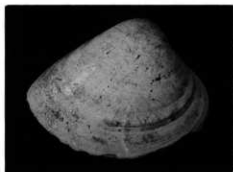
圖版13



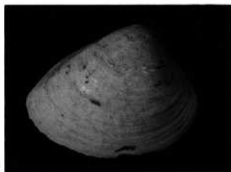
17



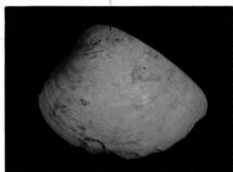
18



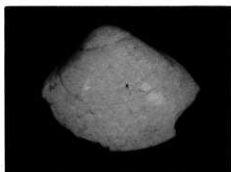
19



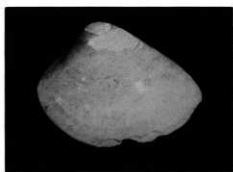
20



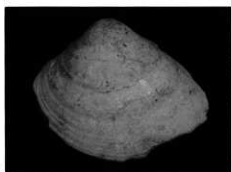
21



22



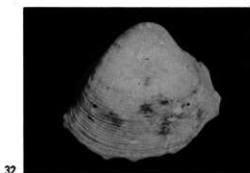
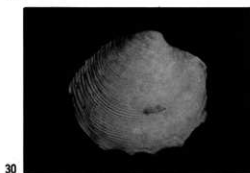
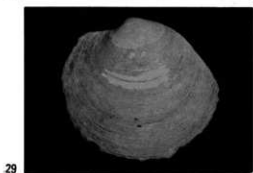
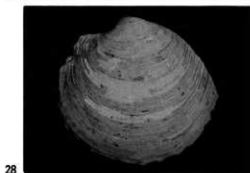
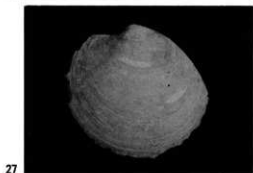
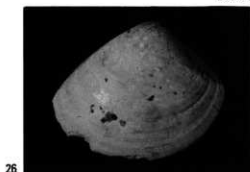
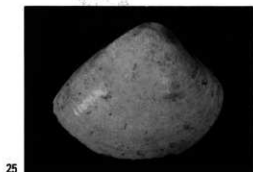
23



24

貝製品(1)貝刃

圖版14



貝製品(2)貝刀



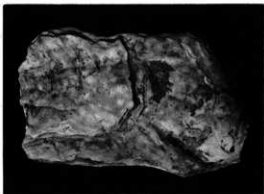
33 貝輪



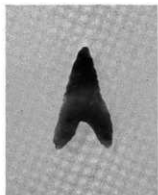
34 貝輪



35・36・37 貝輪破片



38 異形貝製品



貝製品その他



←39 打製石鏃

↑41 黒燐石剥片

昭和56年3月25日 印刷
昭和56年3月31日 発行

編集兼発行者

神奈川県立博物館長

戸栗栄次

横浜市中区南仲通5-60

印刷所 東邦印刷株式会社